

多職種カンファレンスの実施頻度に関する調査報告

多職種カンファレンスの実施頻度についてアンケート調査を実施したので報告致します。

方法

2014年4月12日～20日に開催された日本離床研究会教育講座にてアンケートを実施

●設問

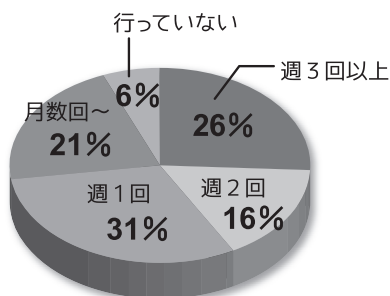
皆さんの病棟（施設）で、多職種が参加する患者（利用者）カンファレンス（回診も含む）は週に何回行っていますか？

●回答選択肢

週3回以上、週2回、週1回、月数回～月1回、行っていない、のいずれかにチェックをする

結果

- ・ アンケート回収総数 735
- ・ 有効アンケート総数 706



考察

結果より、約7割の病棟（施設）で最低週1回の頻度でカンファレンスが行われていることがわかります。皆さんの印象はいかがでしょうか？

大方予想通りという印象でしょうか。

中でも週3回以上実施している病棟（施設）が24.8%というのは、「たくさんやっているな」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

今回の設問では具体的にどのようなカンファレンスが行われているかまではわかりませんが、様々な合併症等の管理体制整備の一貫で、対策チームが近年多く存在します。

呼吸器ケアチーム、褥瘡管理対策委員、院内感染防止対策委員、栄養サポートチームリハビリテーション総合実施計画、医療安全管理体制など診療報酬加算の中でカンファレンスの定期開催が義務付けられており、このような管理体制が整っている病棟（施設）においてカンファレンスの開催頻度は自ずと高い傾向があると考えられます。

また、適切なケースカンファレンスの実施により、機能障害の改善、安全な離床の実現、合併症の予防・改善、早期退院支援など、良好なアウトカムが得られることも多くあると思います。

一方でカンファレンス開催の問題点としては何と言ってもカンファレンスにかかる時間ではないでしょうか。

忙しい臨床業務を中断してのカンファレンスの実施、また業務時間外でのカンファレンス実施等の問題もあります。

円滑なチーム医療の実現にはカンファレンスの実施は不可欠ですが、時間短縮、人員選定、カンファレンス実施時間帯などの効率化が今後の課題を思われます。

著者情報：飯田 祥 * 黒田 智也 * 曷川 元 *

* 日本離床研究会 学術研究部

